

第30回 芦原科学賞

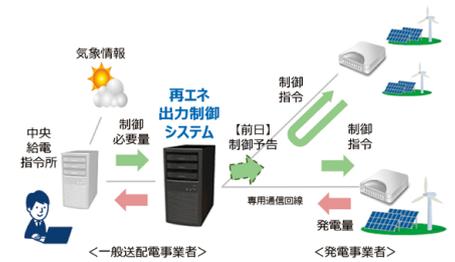
芦原科学大賞 受賞者インタビュー

「第30回 芦原科学賞」で大賞を受賞(テーマ:電力の安定供給と再生可能エネルギー電源導入拡大に貢献する再エネ出力制御システム(需給制御システム)の開発)された四国計測工業株式会社の平尾課長、村尾課長、大野副長、横山副長、横田主任、推薦者の寺井社長を訪ね、近藤理事長が開発までの苦労話やこれからの抱負、展望などについてお聞きしました。



四国計測工業株式会社(仲多度郡多度津町)

1951年に電力メーターの修理調整を行う会社として設立以来、電力分野では、発電所や電力輸送関連のシステム装置の設計、製造、施工、保守サービスなどを通じて電力の安定供給を支えています。また、一般向け分野では、AI・IoT・DXなどのデジタル技術やマイクロ波、バイオ関連技術を応用した製品開発、海外を含めた新たな販路開拓、カーボンニュートラル関連設備工事の提案活動などに取り組んでいます。



▲再エネ出力制御システムの概要

はじめに

理事長: この度は、芦原科学大賞の受賞、誠にありがとうございます。早速ですが、受賞された感想やお気持ちをお聞かせください。

平尾課長: 非常に荣誉ある賞をいただき大変うれしく思っています。対外的に我々の開発が評価され、関係者全員の士気が高まりました。今回の受賞を励みによりよい製品開発ができるよう更に研鑽に努めていきたいと思います。

大野副長: 小学校の同級生などたくさんの方から、新聞やテレビで見たと連絡をいただき反響の大きさに驚いています。

村尾課長: 再エネ出力制御に長年携わってきて、荣誉ある芦原科学大賞という形で評価されて大変うれしく思っています。受賞を励みに今後も皆様のお役に立てるシステムを開発していきたいと思います。

横山副長: ソフト面の開発を担当してきて、これまでお客様から感謝されるこ

とはあっても、こういった賞の受賞は初めてだったので非常にうれしく思っています。

横田主任: これまで、会社内やお客様から評価されることはあっても社外から評価されることはなかったので大変ありがたく思っています。また、ニュース等で取り上げられ子供もかじりついて見るなど、家族にもアピールできました。

寺井社長: お取引先などからお祝いを言ってもらうなど大賞をいただいて本当によかったと思います。システム開発など我々の仕事は中身が見えないところもありますが、今回の受賞で認知も広がり、非常に喜んでいます。

技術開発のきっかけ

理事長: 今回の技術開発に当たってのきっかけや経緯についてお聞かせください。また、全国の電力会社10社のうち7社に採用されていますが、ライバル

会社がいる中で7社に採用されたのはどういった理由でしょうか。

平尾課長:2016年頃から開発を始め、太陽光発電が年々増えていく中、将来こういうシステムが必要になるだろうと予測して社内でも下準備や検討を進めてきました。また、2018年に九州で最初の再エネ出力制御が行われたことで全国の電力会社でも導入の機運が高まってきました。当社は、大手に比べると短納期かつ低コストで開発でき、また電力システムにも精通することから保守サービスなどの面でも小回りもきくところが評価されたと考えます。

開発時の苦労話

理事長:開発に当たり、苦労された点や大変だった点をお聞かせください。

横田主任:インターネットからシステムへ制御をかける必要があるため、セキュリティ対策など信頼性の高いシステム作りはかなり苦労しました。

横山副長:一般事業者から30分以内に10~30万台のアクセスが一気に来るため、対応できるシステム作りはかなり苦労しました。

仕事のやりがいや喜び

理事長:仕事を通して、やりがいや喜びを感じるのはどのようなときでしょうか。

平尾課長:メンバーがプロジェクトを完遂してお客様から感謝されたときの笑顔を見るのが好きで、また部下がいい経験をしてレベルアップ・成長したときに、非常にうれしくやりがいを感じます。

大野副長:本システムは7社に納めており、その都度メディアに取り上げられ、周りの人から「すごい!」と声をかけていただきました。そういうときに、自分の仕事が役に立っていると感じます。

村尾課長:納めたシステムがトラブルなく正常に動作したときが一番うれしく思います。

横山副長:ソフトを制作する際に先を見越して取り入れていた機能が、あとから実際に必要となったときにうれしく思います。

横田主任:各社のでんき予報において使用電力量のカーブが下がり、納めたシステムが正常に動作したことがわかったときに安定供給に貢献できた喜びを感じます。

財団への期待

理事長:芦原科学賞は県内の優れた取り組みをしている企業に光を当て、更に頑張ろうと思っただけのように実施しています。その他にも、当財団では中小企業の人材育成、資金繰り、知財関係、労働問題など、幅広く支援しておりますが、今後、財団に期待されることなどありましたらお聞かせください。

寺井社長:このような名誉ある賞をいただくことは、ものづくり企業としては非常に励みになるのでありがたく思います。また、財団は幅広く中小企業を支援されて頼りがいのある存在になっており、地域全体の産業のベースアップに貢献していると感じます。足りない技術や経験の少ない分野で連携させていただくのは非常にありがたいです。

理事長:当財団では、展示会出展支援や、事業承継の悩み相談、大手企業とのマッチングなどの企業支援も行っておりますので、今後も是非ご活用ください。

今後の抱負や展望

理事長:今後の抱負や展望などについてお聞かせください。

平尾課長:現在NEDOの事業に参画し、最新技術を入手して再エネ制御システムの利用価値向上を図る取り組みを進めており、今後も本事業を拡大して

いきたいと考えています。また、明るく楽しく心地よい未来の実現を通じて香川の産業技術の発展に貢献したいと考えます。

寺井社長:引き続き電力の安定供給に貢献することはもちろん、ここ数年はバイオ関連技術やAI・IoT、省力化・省エネなどへ重点的に取り組んでいくことにしています。

理事長:今日は素晴らしいお話をありがとうございました。これからも新たな技術開発に取り組まれ、益々発展されることを大いに期待しております。



▲芦原科学賞贈呈式の大賞受賞者記念写真
(左から寺井社長、横山副長、横田主任、村尾課長、平尾課長、大野副長)



▲懇談風景



▲インタビューを終えて記念撮影
(左から大野副長、横山副長、寺井社長、近藤理事長、平尾課長、村尾課長、横田主任)